

No.187

2020.
9.30

岐阜の博物館



岐阜県
博物館協会
Gifu Museum Association

煌めく好奇心

岐阜大学教育学部／岐阜大学学術アーカイブズ企画運営室 須山 知香

「岐阜大学学術アーカイブズ」は、岐阜大学70周年記念事業として皆様の多大なるご支援ご協力を頂き、令和元年6月1日にその活動をスタートしました。

第一期整備では、「アーカイブ・コア」として、図書館の中にふたつのエリアが誕生しました：展示機能を兼ね備えた資料収集スペース「PRAETER／プラエテール」、大学研究者が、それぞれの興味関心を紹介し学生を研究の世界へと誘う「FUTURUM／フトゥールム」。また、各学部の学術資料保管施設を「アーカイブ・サテライト」として整備を進めています：教育学部植物標本庫の拡充改修、地域科学部の地域資料・情報センター、応用生物科学部の地域の生物展示コーナー（新設予定）です。

そして、学内では、授業の一環としてアーカイブズの収蔵庫や展示の見学、これらを利用したレポートやパネル制作などの課題が日常的に行われるようになりました。学生の皆さんは、それなりにまじめに取り組み、無事単位を取って修了していくのですが、時として、面白い人が出現します。見学时、逆のように資料への質問を返し、「はい、時間になったから帰りますよ」と、退室を促しているのに、キョロキョロじりじり奥へと逃げて、教員が「もう施錠しちゃうから！」というまで、出てこないヒト。「これは研究のために作られた資料です。なので、研究心がある人は自由に手に取ってね」と、声をかけると、とろける笑顔で鶏の仮剥製を撫で回して「ねえ、この子の脚、ガッツリとワニだわ」、なんて洒落たセリフを言っちゃうヒト。‘レポートはA4用紙に3-5枚で作成せよ’との指定を出すと、必要以上におっきな写

真やグラフを駆使した3.1枚(!?)の仕上がりが多くなる中で、思いの丈をぎっしり綴って8枚で提出しちゃうヒト（レポートの指定枚数は、超過もマイナス評価になりますが、この時は内容の良さと気遣いに押されて、プラス評価しました）。彼らの、こんなキラキラした姿を見ると、この組織の設立や継続のためにかけた苦勞などは何処かへすっ飛び、「さて次は、どんなコトをしようかな」、などと、考え始めてしまうのです。

このご時世、活動費用は自前で稼いでと言われた岐大の大学博物館は、どんな戦略でこれから何を成すことができるのか。アーカイブ・コアの展示を作る時、埃まみれで学内の片隅に置かれていた動物の剥製たちは、夜なべ仕事で毛皮を拭き清め煤んだ目玉を磨いたとたん、キラリと光ってニヤリと笑った！とは、アーカイブズ企画運営室長K氏の談。我等が大学の文化・学術的な集積スペースには、モノが活き、ヒトの好奇心を躍らせるような何かの力が宿っていることを信じて、これからのコトを進めて行きたいと思います。



写真：アーカイブ・コア展示／岐阜の身近な動物たちが勢揃い

ご支援いただいている
企業・団体

公益財団法人
田口福寿会

OKB 大垣共立銀行

十六銀行

こと部会【報告】 新型コロナウイルス感染拡大防止対策に 関するアンケート実施と結果について

こと部会では、世界的な規模で猛威を振るい、私たちの社会活動にも多大な影響を及ぼしている「新型コロナウイルス感染症」について、各館の対応に関するアンケートを実施しました。未だ収束の兆しが見えないなか、速報版ではありますが、それぞれの状況や取り組みなどを以下のとおり紹介することで、これからの各館における前向きな活動の参考としてもらえることを望んでいます。

集計状況

送付はメール配信100館、郵送14館の計114館。8月16日締切とし、回答は63館で回答率は55.3%であった。

休館措置の実施

完全休館、または部分休館の期間について、完全休館した施設が多数を占めた。4月4日(10館)、6日(12館)、7日(7館)のうちに閉館した施設が多かったが、3月中に閉館を決めた施設や、4月のゴールデンウィーク前に閉館措置を取った施設などもあった。また、再開館時期も施設によってまちまちで、5月31日(18館)まで閉館していた施設が最も多く、その他18日(8館)、25日(5館)などが続く。一部施設は依然閉館中だ。各施設の抱える事情や状況によって、休館、再開館の時期に大きなばらつきが生まれたのだろう。

休館中の情報発信や外部からのお問い合わせ対応などについて

休館措置を取っていたものの、告知等は特に行わなかったと回答した館も多く見られた。ウェブサイトに休館中の旨を掲載した他、SNSでの発信、個別の電話・メールには出勤している職員が随時対応、職員全員が自宅待機を余儀なくされた館は留守番電話にて対応、などと回答した館が多かった。また、休館中の情報発信として、所蔵作品や、本来であれば開催予定であった展覧会をSNS上で紹介していた館もあった。

再開館にあたっての感染防止対策

館内の定期消毒、換気、消毒液の設置、飛沫防止のための仕切りの設置、身体的距離確保の表示は大多数の施設で行われているようである。ただし、施設規模や館の構造、展示内容によって消毒や換気の方法などには差が見られる。例えば、消毒の回数は時間を決めて1日に2~3回程度という施設が多かったが、1時間ごと、あるいは来館があるたびに消毒を行うと回答した施設もあった。また、ハンズオン展示がある施設は中止したとの回答が多かった。

再開館にあたっての来館者への対応

基本的な注意喚起とマスク着用の義務付けは多くの館が行っている。また、個人情報提供の依頼、県感染警戒QRシステムの導入を実施している施設も一定数見られる。入場制限に関し

ては、滞在人数に上限を設けていると回答した館が全体の3分の1~半数程度あったが、今のところ上限に達したことはない、という施設も多く見られた。

催事について

特に日時と場所を指定しての展示解説、講演会、ワークショップ、イベント等について、延期・中止したものと回答した施設が多数あった。恒例行事を中止したという回答も寄せられた。また、展覧会の延期・中止により年間計画の変更を余儀なくされた館もあった。

まとめ

各館の方針や対応策は、施設の規模や展示内容によってまちまちである。新型コロナウイルスの感染防止対策には必ずしも正解があるわけではないため、各館のリソースに応じて可能な限り必要な対策を講じるほかない。また、事態が長期化することにより、特に私設館、小規模館では人員・資材不足や財政面での不安が浮き彫りとなっている。さらには、博物館のあり方や活動に対する評価方法について見直すべきではないか、という興味深い意見も寄せられた。

各館が手探りでの運営を行っている中、本アンケートの内容が県内施設の現状を把握する一助となれば幸いである。

(中山道広重美術館 中村香織)

①休館措置の実施

完全休館した。	58
部分休館した。	4
休館措置は取っていない。	1

②休館中の対応

(1) 職員の勤務状況 (複数回答可)

通常通り勤務。	19
人数を減らして勤務。	21
在宅勤務もしくはサテライトオフィス、テレワークなどの分散勤務の導入。	15
振替勤務、変形時間勤務で対応。	6
出勤できなかった職員がいた。	3
その他	12

(2) 休館中、館からのweb発信や外部からのお問い合わせの対応などについて

特に行わなかった。	15
行った。	43

③再開館にあたっての感染防止対策

(1) 施設・設備に関すること (複数回答可)

館内及び展示室の定期消毒	47
館内及び展示室の換気	46
消毒液の設置	55
一部施設・設備の使用禁止	29
飛沫防止のための仕切り等の設置	48
身体的距離確保(いわゆるソーシャルディスタンス)の表示	48
出入り口の制限	12
ミュージアムショップの閉鎖	7
カフェなどの閉鎖	3
触る展示品など展示室内での制限	19
その他	8

(2) 来館者に関すること（複数回答可）

注意喚起（マスク着用、観覧時の注意事項）の掲示	53
検温	25
マスクの着用義務	52
来館事前予約	11
時間帯や人数等による入場制限	26
連絡先等の個人情報提供の依頼	36
「岐阜県感染警戒QRシステム」の導入	35
その他	5

(3) 催事等に関すること

通常通り実施。	2
中止・延期したものがあつた。	37
実施したが、内容などを変更したものがあつた。	9
その他	10

④再開後の入館者数について

(1) 開館直後1週間の入館者数

例年の2割～4割程度	25
例年の半分程度	7
例年の6割～7割程度	11
例年の8割～9割程度	2
ほぼ例年どおり	2
不明	3
その他	5

(2) 本照会日の直近1週間（R2.7月下旬～R2.8月上旬）の入館者数

例年の2割～4割程度	24
例年の半分程度	8
例年の6割～7割程度	6
例年の8割～9割程度	4
ほぼ例年どおり	6
不明	3
その他	2

⑤その他

(1) 感染症対策に関して、参考にされた指針やガイドライン（日本博物館協会2020.5.4など）や情報などがあつたらお教へください。

- ・県及び市町村の指針、ガイドライン
- ・日本博物館協会、国際美術館会議（CIMAM）、日本図書館協会等が提示している指針、ガイドライン
- ・企業博物館の場合は、本社の指示やガイドライン

(2) 自館、他館問わず、感染症対策として参考になつた事例や特記事例があつたらお教へください。

- ・日本科学未来館制作「新しい感染症との向き合い方 わかんないよね新型コロナ」
→基本的なことが分かりやすく説明されている。
Facebook 公開グループ「ミュージアムの新型コロナウィルス対応情報共有」
→多くの参考となる具体例に触れられている。
- ・全国の科学館の開館状況など、ホームページに掲載されている情報を収集し、参考にした。
- ・団体客受け入れ時のフェイスシールドの使用。
- ・チラシは設置せず見本のみを出し、申し出があつた時に窓口で配布した。
- ・6/19～7/31まで高山市、飛騨市、白川村で『飛騨お目覚め宣言～あんしんの旅～』キャンペーンと銘打つて、期間中は主要施設の入館料が無料だった。そのため7月度の来館者数は昨年比2.5倍となつた。しかしその反動か、8月に有料に戻り、また第2波の風潮が重なる途端に来館者は減少した。

(3) 感染症対策について、お困りの点、お知りになりたいことなどがあつたらお教へください。

- ・団体の受け入れ方法について苦慮している。
- ・団体の受け入れやイベント等の再開のタイミングが図れない。
- ・入場制限を行う際にお客様に納得していただける方法で

対応できるか心配。（特に夏場は野外で待つていただくことになるので、上手く対応しないとクレームになる可能性もある）

- ・来場者が新型コロナウイルス感染症を発症した際や、実際に発熱している来館者があつた場合の具体的な対応策を知りたい。
 - ・入館料が無料であるため、自由に入出入りする来場者の状況を把握しきれない。
 - ・一般的なガイドラインは小規模館では対応が難しい内容も多い。規模や館の特性に応じた多様な指針が示されるとありがたい。
 - ・今後どの程度の対策をしていけばいいか、判断が難しい。
 - ・次年度の予算組みや展覧会の開催に関する注意点を知らりたい。
 - ・資料閲覧や博物館実習、ボランティア活動について各館がどのように対応しているか知りたい。
 - ・体温計や消毒液等の確保が困難。
 - ・現有の施設スタッフ、備品のみでは感染症対策のための消毒作業が不十分なため、追加の人員や経費が必要となっている。スタッフの労力、経費の負担が大きくなつている。
 - ・財政的な課題から、自館が十分な対応を取れていないと感じている。
 - ・私設館は外部から得られる資金補助や情報が乏しいと感じているため、今後の運営に不安がある。
 - ・通常よりも安い料金で施設を貸し出したり入館料を安くしたりしているため収入が減つており、財政的に厳しい状況が続いている。
 - ・館内の有効な消毒方法、抗菌対策などがあれば知りたい。現状の方法で本当に十分なのか分らない。
 - ・入館者のモラルに期待するしかない。
 - ・体温測定が正確にできる機器（サーモグラフィ）を紹介してほしい。
 - ・書籍を消毒するための除菌機で、簡易なものがあれば紹介してほしい。
 - ・館や来館者の中でIT格差が広がっているように感じる。
 - ・他館のリアルタイムの状況を知りたい。（中止や再開、制限等）
 - ・建物が江戸時代当時に造られたものであるため、薬剤を直接散布することによって建物の劣化が引き起こされないかがどうかが心配。
 - ・県をまたいでの移動が憚られる状況が続いており、企画展示に関する現地での調査・資料収集業務に支障をきたしている。
- (4) これからのコロナの時代、博物館の在り方について、お考えがあれば自由にご記入ください。
- ・入館者数で館の活動を評価するような考え方を改めるべき時ではないか。新たな鑑賞方法、参加方法、関係性を築くことができればと思う。今こそ協会の連携を強めて共に創意工夫ができることを願う。
 - ・オンラインの活用は必須。機材面、技術面でも対応できるようスタッフで勉強中。
 - ・自粛期間中、いつも以上に図録・調査報告書の購入の問い合わせが多かつた。自粛期間中の過ごし方の選択肢になれるよう、書籍の通販をより促せるよう、ウェブサイト等に力を入れなければならないと感じた
 - ・対面型の講座をオンラインに切り替えるなど、従来の方法からの改善や工夫が必要。
 - ・以前の客層は外国人観光客が4割を占めていたが、現在は日本人中心となっているため、傾向に沿つた対応が必要。
 - ・人を集める催事や来館者数増加を博物館活用の成果とすることが難しくなつてきた。
 - ・来館者一人一人が、館でどう過ごし、どう展示物と向き合うのか、そうした機会をどう提供し、個々の活動に働きかけることができるか、館の持つ「人・もの・こと・場」を活用し、人々の興味関心を刺激できるか、内容の充実について検討する機会になればと思う。オンラインでの見学もできるようにしたい。
 - ・過度に規模を縮小することなく、従来通りお客様に展示を見ていただきたい。
 - ・安心・安全を第一として活動していく。
 - ・インターネットはあくまできっかけ。頼りすぎることなく、実際に安心して来館してもらえよう感染症対策をしていく。

高中生に様々な学びの機会を 提供する岐阜市歴史博物館の取り組み 「われらも麒麟!!!プロジェクト」

期 日：令和2年1月11日（土）～
会 場：麒麟がくる 岐阜 大河ドラマ館内
（岐阜市歴史博物館2階）
参加者：475名（8月16日現在）

現在、当館2階の「麒麟がくる 岐阜 大河ドラマ館」に合わせ、中高生が岐阜の歴史を学び、魅力を発信し、岐阜市の大河ドラマ事業を盛り上げる企画「われらも麒麟!!!プロジェクト」を実施しています。ふるさと岐阜の歴史を学び、岐阜に誇りをもち、そして、来場者との出会いや関わりを通して、自信と生きる力をつけてほしいという願いからです。この願いで中高生に向けた様々な学びの機会を提供するのは、2018年からです。

最初は、2018年9月開催「発掘された日本列島2018」で中学生による展示解説「ここが見どころ!」を行いました。来場者に中学生の解説は受け入れられるのか不安はありましたが、「中学生の視点から資料を見ると、また新たな気づきや感動があった。」とたくさんの好評を頂きました。翌2019年4月開催「川端康成と東山魁夷～美と文学の森～」では、解説員の募集を市内の学校に通う中高生に広げました。高校生の解説を聞いた来場者からは、「勉強した知識と研修で学芸員さんから得た専門的な知識に加え、自主的に調べたことや考察、感想を自分の言葉で説明していて素晴らしかった。」という声を頂きました。そして、現在はドラマ館に高校生から「戦国時代と岐阜」をテーマに公募したグラフィック・映像作品の展示や中高生による展示解説（感染症予防のため活動休止中。FBや見どころシートを制作し見どころ紹介）等で市の大河ドラマ事業に一役買っています。

活動した中高生は、活動をきっかけに歴史にさらに興味をもち、その後も歴博に関わり続ける子、自分の学びが誰かの喜びにつながることを実感し、さらに自己研鑽を積む子と、それぞれの成長を見せ始めています。

（岐阜市歴史博物館 若森美恵子）



もの部会【報告】 令和2年7月豪雨における 被災アンケート実施と結果について

もの部会では、令和2年7月豪雨を受けて、10日に事務局を通じて加盟館宛てに被災状況を調べる一斉アンケートを行いました。急ぎの事業だったため、部会員にはメールで意見集約を行い、実施内容を決定しました。

アンケートの内容は、1.施設名、記載担当者名/2.被災箇所のあるなし/3.被災箇所：管理エリア・公開（展示・その他）エリア・バックヤード・展示物（実物資料）・展示物（複製品・ジオラマ）・二次資料（パネル等）・その他/4.被災館について、岐阜県博物館協会の手伝いの要不要・必要な場合その内容・不要の場合その理由/5.その他もの部会への要望。加えて、もの部会で備蓄している備品、消耗品の貸出についてのお知らせ等を添えました。

送付はメール配信100館、Fax 送信8館、郵送6館の計114館。回答は7/31の時点で48館（43%）だったため、8/1にメールを再送。その後、返信のない館に個別に電話をして回答を集めました。18日付で回答館は100館、回答率87.7%。被災箇所は3件で以下の通り。

- 中山道みたけ館（御嵩町）施設内1か所軽微の雨漏り発生。業者に依頼し修繕済み（7/11現地確認）
- 美濃歌舞伎博物館相生座（瑞浪市）舞台下地下に浸水、ポンプでくみ出しを行う（7/16現地確認）。
- 荒川豊蔵資料館（可児市）敷地内の石垣に一部破損有（電話にて確認）。

もの部会への支援依頼は0件でしたが、現地確認のためお訪ねした館には、忙しい中ご対応いただいたことを、心より感謝申し上げます。

最終的に、回答のない館にそれぞれ直接電話をしたことで、メールの不備や電話もつながらないなど、問題点も明らかになりました。近隣エリア内での連絡網の確実な構築や、初動対応策、被災施設の調査方法など、今後の課題も多く、協会全体で考えていくことが強く求められると感じた今回のアンケートでした。

（もの部会長 正村美里）

第44回東海三県博物館協会 研究交流会での事例報告について

令和元年11月6日に斎宮歴史博物館にて「博物館と観光のちょうどいい関係」をテーマに研究交流会が開催されました。今回のテーマは、同年8月、文化庁が博物館の観光拠点化支援を打ち出したことに基づき（文化観光推進法として令和2年5月1日に施行）、今後の博物館と観光のより良い関係を考えていくために設定されました。

事例報告として、伊賀流忍者博物館の学芸員が訪日外国人の国やエリアに応じた接客の工夫について、博物館明治村の学芸・催事担当が時流をとらえた集客方法について、私が奥の細道むすびの地記念館の学芸員として来館者の実態とニーズについて話しました。

その後、討論・意見交換が行われました。主に、インバウンドや電子マネー決済の取り組みについて議論が進められました。インバウンドに関しては、海外への情報展開に対するコストパフォーマンスが一概に良いとは言えないとの指摘がありました。また、訪日外国人の目的がその出身国や居住エリアによって異なるため、ニーズに沿った対応が求められるとの意見が出されました。訪日外国人に必須の電子マネーについて、導入は容易だが、運用上、手数料がかかり悩ましいとの感想も出されました。



その他、日本遺産認定後の入館者の増加の有無や、各館のオリジナルグッズの作成方法、訪日外国人に人気のお土産は何かなどの質問がありました。文化財施設の観光・商業利用に対する注意事項についても議論がありました。

今後の来館者への対応に関して、示唆に富む研究交流会でした。

(奥の細道むすびの地記念館 上嶋康裕)

館・園紹介 No.166

ヤマザキマザック工作機械博物館

〒505-0037 岐阜県美濃加茂市前平町3-1-2

TEL / 0574-28-2727

FAX / 0574-25-2129

URL / <https://machine-tools-museum.mazak.com/>

ヤマザキマザック株式会社は1919年の創業以来、工作機械を通じて世界中のモノづくりの発展に携わってきました。工作機械は、私たちの身の回りにある多くの工業製品の製造で、重要な役割を担っています。しかしながら工作機械は工場の中で生産設備として用いられているため、その存在や用途、開発の歴史などは一般の方々にはほとんど知られていません。



そこで2019年11月、操業100周年を記念し、これまで関わってきた工作機械をより広く伝えるとともに、モノづくりへの関心を高め、産業観光を通じて地域や社会に貢献すべく、世界的にもめずらしい工作機械に特化した博物館を開業されました。もともとレーザー加工機を生産していた美濃加茂市前平町のクリーンで省エネルギーな地下工場を改装して開設されました。展示室は地表から約11メートルの地下にあり、その大空間には、18世紀から現代までの大小70台余りの工作機械が展示されています。それらは熟練技能者の手によってレストアされ、稼働できる状態すなわち動態展示となっています。また現代の工作機械で構成された自動加工工場も併設されていて、工作機械部品の生産風景を見学することができ、工作機械の進化と先進性を実感することができます。さらに館内には、やすりがけ作業やきさげ作業などのモノづくり体験ができるコーナーもあり、ここでは現代の名工ら高度熟練技能者がやさしく教えてくれます。

(美濃加茂市民ミュージアム 可児光生)



図書紹介

会員のお薦め図書

瑞浪市陶磁資料館 砂田晋司

『歴史探索の手法－岩船地蔵を追って』

福田アジオ 著

発行 筑摩書房（ちくま新書）

本書は、国立歴史民俗博物館教授などを歴任された著名な民俗学者である福田アジオ氏が、調査に30年余り、執筆に3年余りもの歳月をかけて著された力作です。

岩船地蔵とは、岩舟の上に立つ姿の地蔵尊（石仏）で、江戸時代中期の享保4年（1719）頃に関東を中心に大流行しました。本書では、地道な調査に基づき、その伝播ルートなどが詳細に考察され、歴史学と民俗学という二つの方法で出された歴史像には大きな差異があることが実践的に示されています。しかし、これはどちらの方法（歴史像）が正しいというものではなく、それぞれの特徴によって異なる歴史的世界を明らかにできると評価されます。

この様に学術的な見解が注目される一方、本書で最も印象的なのは福田氏のような著名な学者が、郷土史家でもさほど興味を示さない、路傍の石仏を長期間にわたって調査している点です。この点については、あとがきで「継続は力なり」「一つ一つの事例は断片に過ぎないが、それが集積されるとそこに全体像が浮かび上がってくる」「小さなことのように見える問題も、継続して取り組むことで、いつかは大きな問題に発展する」などと記されており、大いに肯首できます。また「研究は一人ではできない。大勢の協力と支援が必要」「研究にとっていかに人の輪が大切か」などとも記されており、博物館の業務・活動を遂行するにあたって示唆に富んだ姿勢と言えます。

本書は、新書ということもあって一般的な用語が使用されており、歴史・民俗を専門としない方でも読みやすい内容となっています。ぜひ一読いただければ、様々な資料の価値や可能性に気付くことができ、今までとは違う風景を見ることができるようになると思います。



博物館協会 インフォメーション

令和2年度岐阜県博物館協会通常総会
(書面議決)

令和2年度通常総会は5月27日に岐阜県博物館にて開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、書面表決書の提出による書面議決となりました。また、例年同日に開催していました県民文化講演会については、上記の理由から残念ながら中止となりました。

今年度の議題は①役員の変更について②令和元年度事業報告及び収入支出決算の承認について③令和2年度事業計画及び収入支出予算の決定について④岐阜県博物館協会規約の一部改正について、以上の4議題となり、賛成多数によりすべて承認可決されました。

今年度事業計画では、昨年度途中に立ち上がった飛騨ブロック部会を含む5地域ブロック部会と3専門部会がこれまで取組んできた、「地域に根差した活動」、「博物館を取り巻く諸課題の解決に専門性をもって取り組む活動」を更に推し進めるものとなっています。是非より多くの会員の皆様にこうした活動へ加わって頂ければと思います。

私は今年度から事務局を担当することとなりました。コロナ禍により各部会活動にも支障が出ているのが現状ですが、事務局として各部会に参加させていただき、会員の皆様の活動の実際を少しでも理解した上でより魅力的な協会づくりに貢献できればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(岐阜県博物館 佐藤宏紀)

編集後記

コロナ禍など、各館を取り巻く状況は厳しさを増していますが、問題意識を深めつつ新たな運営に示唆を与える寄稿をいただきました。

編集：岐阜県博物館協会「こと部会」
発行：岐阜県博物館協会
事務局：〒501-3941
関市小屋名1989（岐阜県博物館内）
(電話) 0575-28-3111
(FAX) 0575-28-3110
(URL) <http://www.gifu-museum.jp/>